

第1学年体育科「水遊び」 「しもあかウォーターランド」

対象：第1学年94名

1 単元名「しもあかウォーターランド」

2 単元の目標

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
・水につかって歩いたり走ったり、息を止めたり吐いたりしながら、水にもぐったり浮いたりする行い方を知るとともに、その動きを身に付けることができるようにする。	・水の中での簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。	・水遊びに進んで取り組み、誰とでも仲良く運動をしたり、水遊びの心得を守って安全に気を付けたりすることができるようにする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①水につかって歩いたり走ったりすることができる。 ②息を止めたり吐いたりしながら、水にもぐったり浮いたりすることができる。	①水の中での簡単な遊び方を工夫している。 ②考えたことを友達に伝えることができる。	①水遊びに進んで取り組もうとしている。 ②順番やきまりを守り、誰とでも仲良く運動しようとしている。 ③水遊びの心得を守って安全に気を付けようとしている。

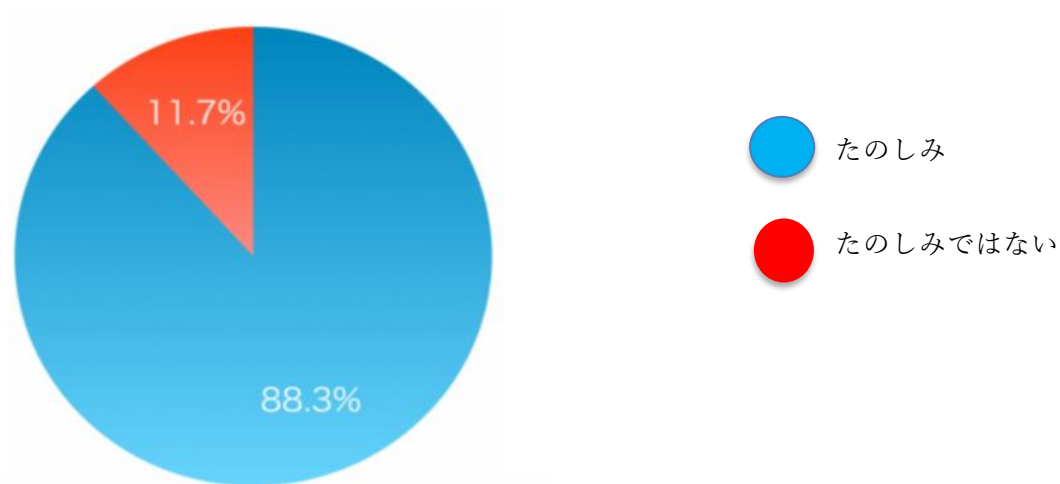
4 運動の特性

水遊びは、水中を動き回ったり、もぐったり、浮いたりする心地よさを楽しむ運動遊びである。他の運動と違って、水の中で学習をする。運動遊びを通して、水の特性を知り、水に慣れ親しむことができるようにする。生命に関わることから、安全の心得については必ず取り上げる必要がある。

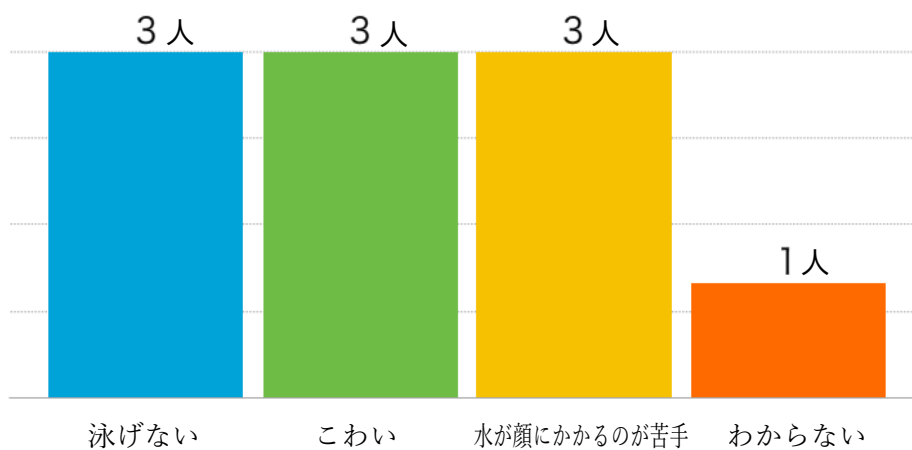
5 児童の実態

- (1) 調査方法：Google Forms によるアンケート
- (2) 実施時期：5月下旬
- (3) 対象：第1学年 児童と保護者

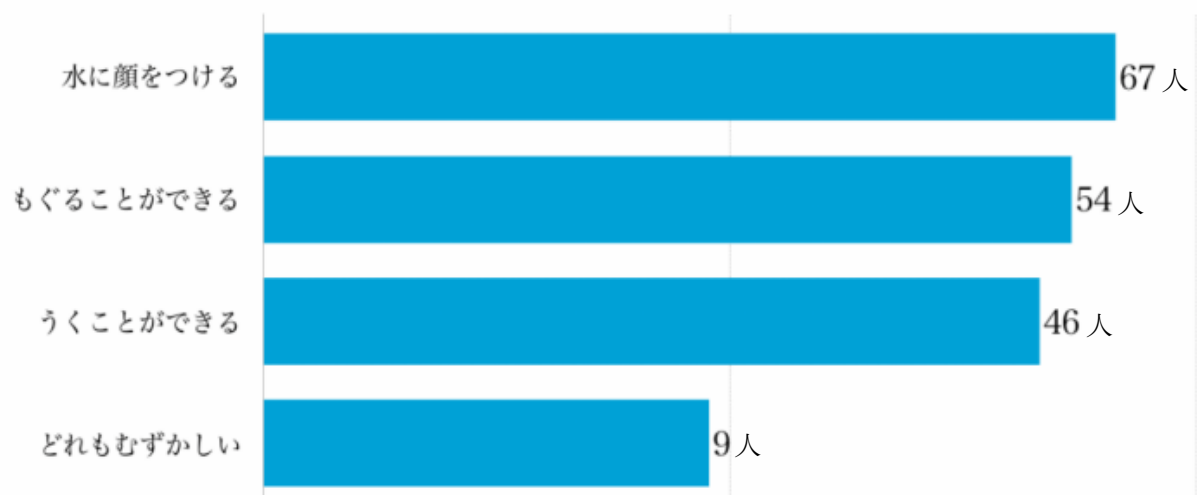
(1) みずあそび（プーる）はたのしみですか。



(2) なぜたのしみではないとかんじましたか。



(3) すいえいでできることをすべてえらんでください。（複数回答）



実践をするにあたって1年生の児童と保護者に水遊びに対しての意欲と経験についての事前アンケートを行った。水遊びに対しては88.3%の児童が「たのしみ」と回答し、水遊びを楽しみにしている児童が多く見られた。一方で11.7%の児童が「たのしみではない」と回答し、理由として「水が顔にかかるのが苦手」「水になれていないのでこわい」「泳げない」等があった。また「水に顔をつける」「水に潜ることができる」「水に浮くことができる」に対して全体の約10%の児童が「どれもむずかしい」と回答したが、そのうちの約70%の児童は「たのしみ」と回答しており、水に対する抵抗感はあるが小学校生活で初めての水遊びに対して期待をしている様子が見られる。

そこで本単元では、「水位を低めに設定する」「図工科で作った自分の魚をプールに泳がせて捕まえる」「体育の授業で楽しんでいるダンスをプールの中で踊る」ことで水に対する抵抗感を軽減させ、プールに入ってみようと思うことができるようにする。また初めての水泳学習ということで安全指導も徹底していく必要がある。水遊びの心得を指導する場面では、教師が良くない例を実演することで危険性をより身近に感じさせ、進んで守ろうとする態度を育てたい。

6 目指す児童像 「運動やスポーツに親しむ子」

7 目指す児童像に迫るための手立て

具体的な手立て	期待される児童の姿
水位を通常より低い児童の腰ぐらいの高さ（約65cm）に設定する。	水に対する抵抗感がなく慣れ親しむ姿。
プール全体を海に見立てる。	水遊びに対する意欲をもつ姿。
安全の心得を指導する際に、教師が良くない例を実演で見せる。	何が良くなかったのか、なぜ良くなかったのかを児童が考えることで、安全の心得をより理解し、進んで守ろうとする姿。
児童が事前に制作した魚のおもちゃや石を拾う活動を行う。	水の中に入りたいという意欲をもち、水遊びを楽しむ姿。

8 単元の指導計画

時		1	2（本時）	3・4	5・6	7・8	9・10
めあて		水遊びのきまりを確認して楽しく遊ぼう。	水遊びのきまりを守って水と友達になろう。	水の中を歩いたり、もぐったりして楽しく遊ぼう。	もぐったり浮いたりして楽しく遊ぼう。	もぐったり浮いたりする遊びを工夫して、みんなで楽しく遊ぼう。	もぐったり浮いたりする遊びを工夫して、みんなでもっと楽しく遊ぼう。
学習活動		○水遊びの経験を振り返る。	○準備運動 ○人数確認（バディ） ○きまりの確認 ○シャワー ○本時のめあての確認				
		○単元の学習の流れと本時のめあてを確認する。	○水の中で体を動かしたり、水の中を移動したりする運動遊びを楽しむ。	○水慣れの遊びをする。 ○水の中で体を動かしたり、水の中を移動したりする運動遊びを楽しむ。	○水慣れの遊びをする。 ○水の中で体を動かしたり、水の中を移動したりする運動遊びを楽しむ。	○水慣れの遊びをする。 ○水の中を移動する運動遊びを楽しむ。	○水慣れの遊びをする。 ○水の中を移動する運動遊びを楽しむ。
		○水遊びの心得とそれを守る大切さについて話し合う。	○緊急時の避難訓練を行う。	○もぐる運動遊びの行い方を知り、バディで楽しく遊ぶ。	○もぐる・浮く運動遊びの行い方を知り、バディで楽しく遊ぶ。	○もぐる・浮く運動遊びを遊び方や人数を工夫して、みんなで楽しむ。	○もぐる・浮く運動遊びをもっと楽しくするために、遊び方や人数を工夫し、みんなで楽しむ。
		○バディシステムと笛の合図を確認する。	○人数確認（バディ） ○整理運動 ○シャワー ○振り返り				
評価の重点	知技			①	②		
	思判表					①	①・②
	主体的	③	①・③	③	③	①	②

9 本時【水泳実施可の場合・プール】（10 時間扱いの 2 時間目）

（1）本時の目標

- ・水につかって歩いたり走ったりすることができる。（知識及び技能）
- ・水の中での簡単な遊びの行い方を知ることができる。（思考力・判断力・表現力）

◎水遊びの心得を守り、水に慣れ親しむ遊びを楽しむことができる。

（学びに向かう力、人間性等）

（2）本時の展開

	○学習活動 ・予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ◎評価【評価方法】
導入 15 分	○準備運動をする。	◇身体の上すべての部分の屈伸、回旋、ねん転などを取り入れた運動を行う。
	○人数を確認する。	◇バディシステムで人数を素早く明確に確認するとともに、児童の表情や動作も観察する。児童にも相手の安全を確かめさせる。
	○本時のめあてを確認する。	
	めあて：みずあそびのきまりをまもって、みずともだちになろう。	
	○水遊びの心得を確認する。 ・プールサイドは歩く。 ・ゆっくり水に入る。 ・笛の合図をよく聞く。	◇教師が笛の合図を聞いていない例を実演で見せ、何が良くなかったかを考えさせることにより、笛の合図をよく聞くことの重要性に気付かせる。 ◇緊急時の笛の合図について確認する。
	○じゃんけんをしながらシャワーを浴びる。	◇じゃんけんをしながらシャワーを浴びることで、楽しい雰囲気の中で水に慣れさせる。また、目を開けてシャワーを浴びることができるようにする。

展開 20 分	○入水し、水底にある魚に模したペットボトルや石を拾い、かごに入れる。 ・少ししゃがんだら拾えたよ。 ・手が届かないから足で拾おう。 ・水に潜って拾ったよ。 ・あそこにまだあるから移動しよう。 ○水中で音楽に合わせてダンスを踊る。 ・水しぶきが飛んで楽しいな。 ・水の中は体を動かすのが大変だ。 ○水中でカニ歩きをする。 ○緊急時の笛の合図を聞き、プールから素早く出る練習をする。	◇通常より水位を低め（約65cm）に設定し、水に対して抵抗感がある児童も楽しめるようにする。 ◇入水の仕方がわかりやすくなるよう、児童が動きを声に出しながら入水する。 ◇プール全体を海に見立てることで、児童が楽しみな気持ちをもって水中に入ることができるようにする。 ◇図工科で児童が制作したペットボトルの魚を使用することで、意欲的に取り組めるようにする。 ◇水中で音楽に合わせてダンスをすることで、児童が楽しみながら水に慣れることができるようにする。 ◇児童の顔色や唇の色等で健康状態を確認し、必要に応じてプールサイドで休息をとらせる。 ◎主①水遊びに進んで取り組もうとしている。 【観察】 ◇リズムにのって歩くことで、楽しい雰囲気をつくる。 ◇肩まで水につからせる。 ◎主③水遊びの心得を守って安全に気を付けようとしている。【観察】
まとめ 10 分	○人数を確認する。 ○学習を振り返る。 ・魚を捕るのが楽しかった。 ・水の中に入って気持ちがよかった。 ・もっともぐってみたいな。 ○整理運動をする。 ○シャワーを浴びる。	◇バディシステムで人数を素早く明確に確認するとともに、児童の表情や動作も観察する。児童にも相手の安全を確かめさせる。 ◇本時の学習で楽しかったことを全体で共有し、水遊びの楽しさに触れられるようにするとともに、学習カードの記入に結びつけられるようにする。 ◎主①水遊びに進んで取り組もうとしている。 【学習カード】 ◇シャワーを頭から足までしっかり浴びるように指導する。

（３）授業参観の視点（協議の視点）

- ①児童が意欲的に水の中で体を動かしたり歩いたりして楽しく遊ぶことができていたか。
- ②児童が水遊びのきまりや笛の合図を理解し、安全に水遊びに取り組むことができていたか。

10 本時【水泳実施不可の場合・体育館】（10 時間扱いの 1 時間目）

（1）本時の目標

- ・水の中のきまりや動作の仕方を知り、身に付けることができる。（知識及び技能）
- ・水の中の簡単な遊び方を知ることができる。（思考力・判断力・表現力等）
- ◎水遊びの心得を理解し、水遊びへの期待感をもつことができる。

（学びに向かう力、人間性等）

（2）本時の展開

	○学習活動 ・予想される児童の反応	◇指導上の留意点 評価【評価方法】
導入 10 分	○これまでの水遊びの経験を振り返る。 ・幼稚園でプールに入ったよ。 ・水の高さは膝までだったよ。 ・プールでの学習を楽しみにしている人が多いな。 ○単元の学習の流れと本時のめあてを確認する。	◇「みんなが楽しく遊ぶために大事なことは何だろう。」と問いかけ、きまりを守ることによって安全に楽しく水遊びができるということに意識を向ける。
	めあて：みずあそびのきまりをかくにんして、たのしくあそぼう。	
展開 25 分	○動画を見て、水遊びの心得とそれを守る大切さについて考え、話し合う。 ・プールサイドは歩く。 ・ゆっくり水に入る。 ・笛の合図をよく聞く。 ○準備運動をする。 ○人数確認の練習と笛の合図で入水する練習をする。 ○魚に模したペットボトルや石を拾い、かごに入れる。 ○緊急時の笛の合図でプール（マット）から出る練習をする。	◇緊急時の笛の合図について確認する。 ◇教師が笛の合図を聞いていない例を実演で見せ、何が良くなかったかを考えさせることにより、笛の合図をよく聞くことの重要性に気付かせる。 ◇バディシステムで人数を確認する。また、児童にもバディシステムの目的を伝え、互いに相手の安全を確かめることができるようにさせる。 ◇マットをプールに見立てて、笛の合図に合わせて水に入るように練習をする。 ◇入水の仕方がわかりやすくなるよう、児童が動きを声に出しながら入水する。 ◇ビニールシートを水に見立てることで、意欲的に取り組めるようにする。 ◇水の中だとどうなるか問いかけ、児童が泳いだつもりになって活動することで意欲的に取り組めるようにする。 ◎主③水遊びのきまりを守って安全に気を付けようとしている。【観察】

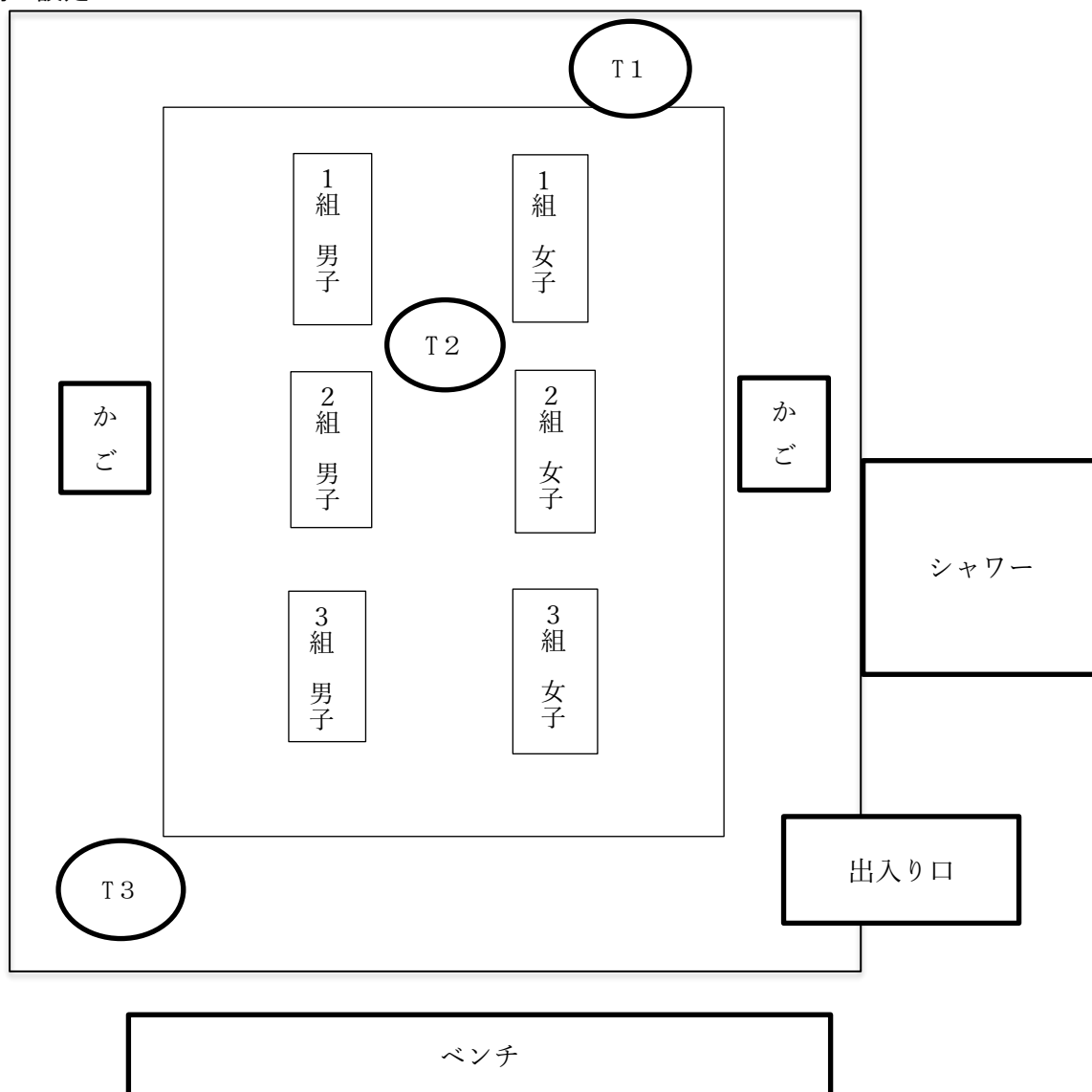
まとめ 10分	○水遊びのきまりを振り返る。 ・プールサイドは歩く。 ・静かに水に入る。 ・笛の合図をよく聞く。 ○次回以降、頑張りたいことを考える。 ・水に顔をつけられるように頑張りたい。 ・魚を捕まえるのを頑張りたい。	◇次時以降の水遊びに向けて頑張りたいことや楽しみなことを共有し、水遊びへの意欲を高める。
------------	--	---

(3) 授業参観の視点（協議の視点）

- ①児童が水遊びの心得や笛の合図を理解し、安全に水遊びに取り組もうという気持ちをもつことができたか。
- ②これからの水遊びに対する意欲が高まったか。

11 補助資料

(1) 場の設定



(2) バディの組み合わせ

児童が互いに助け合い、安心して活動に取り組むことができるように、バディの組み合わせを工夫する。事前アンケートをもとに、水遊びが「楽しみでない」と回答した児童同士がバディとならないように配慮する。同じように「水に顔をつけることができない」と回答した児童同士もバディとならないようにする。また、背の高さがだいたい同じぐらいの児童同士でバディを組ませ、その並び順は、プールサイドへ上がる階段に近い方に背の低い児童が並ぶようにする。

(3) 学習カード

しもあかウォーターランド

()くみ なまえ()

	めあて	ふいかえり①	ふいかえり② (たのしかったこと・できるようになったこと・もっとやりたいこと など)
1	みずあそびの きまりを かくにんして たのしくあそぼう！	みずあそびの きまりが わかった。 ○ ○ △	
2	みずあそびの きまりをまもって みずとともだちになろう！	きまりをまもって みずあそびができた。 ○ ○ △	
		みずと ともだちになって たのしくあそぶことが できた。 ○ ○ △	
3	みずのなかを あるいたり	じゃんぼんや きまりをまもって みずあそびができた。 ○ ○ △	
・	もぐったりして	みずのなかを たのしく あるくことができた。 ○ ○ △	
4	たのしくあそぼう！	たのしく もぐることができた。 ○ ○ △	
5	もぐったり ういたりして	じゃんぼんや きまりをまもって みずあそびができた。 ○ ○ △	
・	たのしくあそぼう！	たのしく もぐることができた。 ○ ○ △	
6		たのしく うくことができた。 ○ ○ △	

	めあて	ふいかえり①	ふいかえり②
7	もぐったり ういたりする	じゃんぼんや きまりをまもって みずあそびが できた。 ○ ○ △	
・	あそびをくふうして	もぐったり ういたりすることができた。 ○ ○ △	
8	たのしくあそぼう！	あそびを くふうすることが できた。 ○ ○ △	
9	もぐったり ういたりする	じゃんぼんや きまりをまもって みずあそびが できた。 ○ ○ △	
・	あそびをくふうして	いろいろな もぐりかた・うきかたが できた。 ○ ○ △	
10	みんなでもっと たのしくあそぼう！	あそびを くふうすることが できた。 ○ ○ △	

〈成果〉

- ・水が苦手だと言っていた児童が、水遊びを楽しんで行っていた。
- ・実際に水の中に入る前にプールに模した活動を行い、見通しをもたせたことで、水遊びに不安感をもっていた児童が安心して取り組むことができた。
- ・児童が制作しペットボトルの魚を使うことで、意欲的に活動に取り組んでいた。

〈課題〉

- ・水に入る際に、教師の笛だけで合図をするだけではどう動いたらよいかわからない児童もいるため、動作を声に出しながら入水するとわかりやすい、
- ・プールに模した場での活動は、児童が水の中で泳いでいるかのように動くことでより楽しめるようになり水遊びに対する意欲も高まった。